

主論文の要旨

Clinical significance of hepatocyte growth factor/c-Met expression in the assessment of gastric cancer progression

(胃癌進展度評価における HGF/c-Met 系発現の臨床学的意義の検討)

東京女子医科大学外科学(第二)教室

(主任: 亀岡信悟教授)

野口 英一郎

MOLECULAR MEDICINE REPORTS Published online on: January 15, 2015

DOI: 10.3892/mmr.2015.3025

【要 旨】

【目的】癌の進展をつかさどるメカニズムのうち、原発巣から遊離・浸潤していく上で、重要な因子は細胞の運動能である。その運動性を亢進させる増殖因子のひとつとしてhepatocyte growth factor (HGF)が知られている。今回我々は、胃癌における進展度評価として、HGF/c-Met系発現の臨床的意義の策定を行った。**【対象・方法】**1999年4月から2003年3月までに外科的切除された胃癌症例より無作為に抽出した110例を対象に、術前血清HGFを測定し病理学的諸因子について検討した。さらにその中から50例を無作為に抽出し、HGF及びそのレセプターであるc-Metの免疫組織染色を行い、各諸因子につき検討した。**【結果】**浸潤増殖様式 (INF $\alpha \sim \beta$ vs. γ) において、進行度が高いものが、術前血清HGF値は高値を示した ($p < 0.001$)。血清HGF値と組織標本におけるHGF、c-Metの免疫染色との間に相関関係は認められなかった。免疫染色においては、c-Metとリンパ管侵襲 (ly0/1 vs. 2/3, $p=0.0416$)、リンパ節転移 (n0/1 vs. 2, $p=0.0184$)、腫瘍径 ($\leq 50\text{mm}$ vs. $>50\text{mm}$, $p=0.0469$) の間に有意な相関関係を認めた。また、c-Met免疫染色において、Stage I / II 症例が全体の82% (41例 / 50例) を占めるにもかかわらず、overall survivalに有意差を認めた ($p=0.0342$)。**【結論】**胃癌におけるHGF/c-Met系発現は、胃癌進展の予測因子となりうることが示唆された。